

令和4年度 学 校 評 価 書

山形県立酒田特別支援学校

学校教育目標 学びを楽しみ、よりよく生きる人を育てる **めざす子ども** 明るく元気に楽しく学べる子ども 自分のことに自分で取り組む子ども 周りの人と仲良くする子ども

経営の方針 全教職員が「聴覚障がい教育」「知的障がい教育」の2障がいに対応する特別支援学校であることを自覚し、自らの専門性を高め、幼児児童生徒、保護者との信頼関係を基盤として、個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づく指導を行い、教育目標の達成及び幼児児童生徒が確かに育つ学校となるように努める。
 1 幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育の実施
 2 地域の特別支援教育のセンター的役割の発揮

【評価】 達成度 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

保護者、教員アンケートによる評価<A～Dの4段階評価のうち、AとB合計の割合>
 達成できた（8割以上） ほぼ達成できた（6～7割） あまり達成できなかった（4～5割） 達成できなかった（3割以下）

（教）教務部 （総）総務部 （生）生徒部 （健）健康安全部 （進）進路部 （相）相談部 （研）研究部 （就）就学支援センター （聴幼）（聴小）（聴中）（知小）（知中）（知高）

今年度の重点1 安全安心な学校

項目	具体的方策・評価指標等	達成状況	達成度 項目番号	課題及び改善策
① 事故の未然防止のための情報共有や対応（学部、生徒部、健康安全部）	<ul style="list-style-type: none"> 個々に応じた指導支援の共通理解（各学部） 聴覚部棟で過ごす施設上の課題を把握し対応を進める。（知中） 交通安全指導を計画的に行う。校内での事故等の記録保管について検討する。（生） 安全安心な環境の整備や危機管理マニュアルの充実を図る。（健） 実態や教育的ニーズに応じた支援のために校内委員会を実施し、教育支援を検討する。（相） 	<ul style="list-style-type: none"> 必要な指導者数の配置が難しい場合には計画を変更したり、他学部の協力のもとで指導支援を行った。（知小） 改善箇所について教務主任や事務部と共有し可能な改善を進めた。検討が必要な箇所を整理した。（知中） 個々に応じた指導支援を共通理解を図りながら組織で対応できた。顔写真一覧を準備することができた。（生） 各訓練等が細かいところまで計画・実施できた。消火体験、煙体験を実施することができた。（健） 学部ごとに校内委員会の開催や担任への働き掛けを行うことができた。（相） 	A 保護者2 保護者5 職員6	<ul style="list-style-type: none"> 必要な指導者の配置や場の工夫の上で、全校体制での指導支援を行う。（各学部） 聴覚部棟の設備で整備が必要な箇所について相談・検討する。（知中、教務、事務） 相談部と協力し職員間で情報交換や共通理解を図る時間を設ける。年度始に確認事項を周知し円滑に引き継ぐ。（生） 避難訓練や日常生活で得られた課題を次年度マニュアルに反映する。職員による緊急捜索体制について追加する。（健） 学部主任、生徒部と連携し子どもの情報共有や協力した対応につなげる。校内委員会を「ケース会議」としてより活用を図る。（相）
② 新型コロナウイルス感染症対策を講じた教育環境（健康安全部、学部）	<ul style="list-style-type: none"> 感染症対策を講じた学習内容や形態を工夫する。（各学部、教） 通知等に応じたマニュアルの修正を行う。（健） 	<ul style="list-style-type: none"> 手洗いや換気などの感染予防対策を行う習慣がついた。（聴中） 状況に応じて学習グループや内容、場所等を変更し実施できた。（知小、知中、知高）修学旅行等では保護者の協力も得ながら安全に活動ができた。（各学部、教） 	A 保護者2 職員7	<ul style="list-style-type: none"> 今後も感染状況を踏まえながら対策を行い活動を実施する。コロナ禍以前の活動の精選、ねらいの明確化を行う。（各学部、教） 国や県の動向を捉え、必要に応じて感染防止対策を整える。（健）
③ 健康指導、健康の維持と体力向上の育成（健康安全部、学部）	<ul style="list-style-type: none"> 日常の体力づくりを継続する。（知中） 運動量を確保するための効果的な指導の工夫に努める。（知高） 健康な生活や体力向上への意識を高める機会を設ける。（健） 	<ul style="list-style-type: none"> スポーツタイム、歩数計の使用、体重測定など継続した効果があった。実態や気候に合わせた単元など柔軟にできた。（知中） 感染症対策を行いスポーツタイムを実施した。（知高） 継続した感染予防の指導が行えた。各学部で持久走記録会を設定し、体力づくりを計画的に進めた。（健） 	A 保護者3 職員5	<ul style="list-style-type: none"> 競技の特性を踏まえた適した時期に持久走、水泳等設定し、年間計画を見直す。（知中） グループ編成や設定時間の工夫により運動量の確保を目指す。（高）
④ 働き方改革の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 会議や打ち合わせの持ち方を検討する。（知小） 教材研究等の時間確保のための指導體制の工夫を行う。（知高） 効率的な会議の運営を進める。（教） 	<ul style="list-style-type: none"> 会議の回数や内容の精選、事前の資料配付、ICT活用で効率化が図られた。（知小） 諸会議でZ o o mの活用、資料の配信等を実施できた。（教） 	A 保護者1 職員14 職員15	<ul style="list-style-type: none"> 必要な会議への運営協力を進める。（知小） 作業学習の時間帯で作業内容と指導者の配置を工夫することで、教材研究等の時間を確保する。（知高） 資料作成や提案の工夫、会議内容の精選を継続する。（教）

今年度の重点2 専門性の維持・向上

項目	具体的方策・評価指標等	達成状況	達成度 評価項目	課題及び改善策
① 個のニーズに応じた教育の充実（教務、研究、学部）	<ul style="list-style-type: none"> 実態に応じた学びの工夫を行う。（知中） 個別の指導計画の適切な目標設定や評価の実施に努める。（知高） P D C Aサイクルが機能し、確かに育つように努める。（教） 学びの履歴シートを活用し、学習の状況や課題を把握する。（研） 	<ul style="list-style-type: none"> 学び合う場面や実態に応じた教材教具の工夫ができた。（知中） 目標の設定や評価を学年や作業班で検討し、共通理解ができた。（知高） 前期の評価から後期の目標設定の際にサイクルを意識することができた。（教） シートを利用したことで状況や課題の把握につながった。（研） 	A 保護者1 保護者3 職員1	<ul style="list-style-type: none"> 学校研究と関連付けながら行う。（知中） かかわる指導者が目標・課題を学年会等で確認し、意識して指導支援することで指導の充実へつなげる。（知高） 学校研究と連携し、個別の指導計画の様式2の整理を行う。（教、研） 履歴シートやまとめシートの形式や使い方について検討し、5月までに提案する。（研）
② 教員の専門性の向上（教務、進路、相談、就セ、学部）	<ul style="list-style-type: none"> 実態に応じた聴覚活用指導を行う。生活全般を通し言葉の獲得や言語概念の形成を図る（聴） 各種研修の計画・運営を行う。（教） 職員研修の計画・実施を通し進路指導について各学部と連携する。（進） 事例の検討やO J Tなどを通して資質向上に努める。（相、就） 	<ul style="list-style-type: none"> 日常で様々な関わりややりとりを重ねることができた。（聴） 関係する分掌部等と連絡調整し、運営できた。（教） 進路研修では外部講師を招き、連携の重要性を確認できた。（進） 様々な相談業務を経験することで部員の意識向上につながった。（相）適宜情報を共有して指導に活かしている。（就） 	A 保護者3 職員8	<ul style="list-style-type: none"> 研究と関連、研修内容の充実を図り指導法向上に努める（聴） 研修内容や参加の仕方を検討し計画する。必要な研修は教育部ごとに計画する。外部研修をニーズに応じて勧める。（教） 実態による進路指導の流れについて情報が不足していた。必要な情報が共通理解できるように学部会等の機会等で伝達する。（進） 特に外部の相談に応じる前の情報収集及び事例検討の時間を確保する。（相）

③ 日常的な授業改善 (研究、学部)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学力定着を図る指導支援に努める。(聴小) ○ 学習のねらいを明確にした指導支援。(知小) ○ 実態に応じた学びの工夫を行う。(知中) ○ 実態や学びの状況を把握しながら「つながり」を意識した授業づくりを積み上げる。(研) ○ 共有教材の管理について検討し実施する。(学) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教科指導についての研修を深める必要がある。(聴小) ○ 一人一授業の取り組みにより、ねらいを学部全体で共有できた。(知小) ○ 意見を出し合いながら授業づくりや実態に合った教材教具の工夫ができた。(知中) ○ 学びの履歴シートを使うことで学習状況の把握が大まかにできた。(研) ○ 2学期に共有フォルダの運用を開始した。(学) 	A 保護者 1 職員 9	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教材研究、授業づくりについて計画的な研修会への参加や学部での研修の時間を設ける。(聴小) ○ 個別の指導計画の様式2の計画を元に、つながりを考えた教材や学習内容について研修の時間を設ける。(知中) ○ 4月に年間計画(全体と学部での進め方)、1学期中に授業検討の計画を示し学部で授業づくりを進められるようにする。(研) ○ 定期的にフォルダ内の状況を確認し充実した活用につながる働きかけを行う。(学)
-----------------------	---	---	--------------------	---

今年度の重点3 早期からの自立と社会参加に向けた進路指導

項目	具体的方策・評価指標等	達成状況	達成度 評価項目	課題及び改善策
① 早期からの進路指導の充実 (進路部、学部)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 個に応じた進路指導や自己実現への学習を計画し実施する。(聴中) ○ 学部の進路だよりの発行や職場見学・体験の計画と実施。(知中) ○ 3年間の成長を見通した進路指導の充実を図る。働く態度を育てる指導支援を行う。(知高) ○ 小中高のつながりを意識した指導を心がける。(教) ○ キャリア教育全体計画のもと個々の障がいや発達段階に応じた適切な進路指導を行う。(進) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実態に合わせた学習や体験を実施できた。(聴中) ○ 職場見学、3年生の職場体験は保護者にもよい機会となり、進路への意識も高まった。(知中) ○ 前期実習の反省を踏まえて後期の指導支援につなげられた。(知高) ○ 開校から12年となり、入学から卒業までの12年間の生活のつながりの姿が見えた。(教) ○ 進路だよりの作成、キャリア教育計画の見直しを行うことができた。(進) 	A 保護者 5 職員 2 職員 10	<ul style="list-style-type: none"> ○ 情報共有ができるように年度始めに主任と部長間で確認を行う。(聴中) ○ 一般就労をめざすケースについては2年時の後期実習先の選定、進路面談時期に留意して進める。(知高) ○ つながりを意識した指導支援について、教育部ごとの主任会を計画し実施する。(教) ○ 進級の機会を利用した交流や情報共有を進めていく。卒業後を見越した必要な力を育てる指導支援を進めるようにする。(進)
② 将来の姿を見据えた力や心を育てる指導 (生徒部、進路部、学部)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 集団参加の基礎的な力を育成する活動を計画し実施する。(知小) ○ 基本的な生活習慣の確立をめざし、最後まで取り組もうとする態度を育てる指導支援を行う。(知中) ○ 他者と適切につながるコミュニケーションができる生徒を育てる指導支援を行う。(知高) ○ 望ましい人間関係の形成に向けた指導の機会を大切にし、いじめ等の防止に努める。(生) ○ 本人の実態に応じた職場見学や体験、産業現場等の実習が行えるよう計画し、実施する。(進) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学部集会や合同学習の積み重ねにより、基本的な態度の育成につながった。(知小) ○ 徐々に支援を減らし、自分で行おうとする気持ちにつながってきた。(知中) ○ 機会を逃さず、生徒と一緒に確認しながら取り組むことができた。(知高) ○ いじめアンケート実施を受け早期の対応を行った。年度途中から幼児児童生徒について職員間での共通理解の場を設けた。(生) ○ 保護者と相談しながら実施できた。事業所の状況に合わせて職員の体制を確認しながらできた。(進) 	A 保護者 5 職員 2 職員 4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 支援の段階等について共通理解を図る場を設け、支援の仕方を統一する。職員の男女のバランスに配慮は必要。(知中) ○ 個々に応じて気持ちの伝え方を学ぶ機会を設けたり、状況づくりを行ったりする。(知高) ○ 職員みんなが同一歩調で取り組む雰囲気継続する。指導支援の方向性を具体的に発信し、体制への協力を進める。(生) ○ 実態に応じ必要な事例では進路担当、主任等の協力も得ながら対応する。相談しやすい状況づくり、情報提供に努める。(進)

今年度の重点4 保護者・関係機関との連携

項目	具体的方策・評価指標等	達成状況	達成度 評価項目	課題及び改善策
① 保護者や地域に対しての障がいの理解・啓発 (教務、総務、学習、進路、ICT、学部)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業参観や学校公開等を通し、家庭・鳥海学園・関係機関等との共通理解と連携を図る。(教務) ○ PTA役員と事務局が連携し、主体的に活動ができるよう企画運営を支援する。(総) ○ 校外作品展に参加する機会を通し制作に計画的に取り組み、地域への発信を行う。(学) ○ パンフレット配付や訪問を通し周知を図る。(就) ○ ホームページでの情報発信を行う。(I) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 感染症対策のもと、授業参観や学校公開を実施した。状況に応じ学園とのケース検討会を行った。(教務) ○ 感染状況に応じた活動を検討し改善策を出し合いながら実施できた。PTA広報を発行し、地域にも回覧した。(総) ○ 校内外の作品展に向けて制作に取り組み、創作意欲を高めることにつながった。計画通り作品展に出品した。(学) ○ 来校した際にパンフレットを配付できた。(就) ○ 年度途中から学部ごとの掲載計画を整え、発信した。(I) 	A 保護者 5 保護者 6 職員 11 職員 13	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者の理解を深めるための授業参観の設定を工夫する。年度始めまたは必要に応じて学園との連絡調整を行う。(教務) ○ 保護者の負担軽減の点から役員選出方法、PTA広報の発行に関わる業務を見直す。情報発信のためにホームページの活用も検討する。(総) ○ 出品への感想や意見をとりまとめ作品展等の事務局とも共有し、次年度の取り組みに活かす。(学) ○ 庄内地区の教育委員会を中心に実施の計画をする。(就) ○ 計画時期に発信できるように、学部担当に働き掛ける。(I)
② センターの機能の充実 (相談、就センター)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 関係機関との連携を図り、巡回相談や就学相談等に適切な支援を行う。(相) ○ 関係機関とオンラインの活用も含め連携する(就) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各市町教育委員会と連携し実施できた。(相) ○ 要請に応じてオンラインでの相談支援を開始できた。(就) 	A 保護者 4 職員 12	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高等学校への支援に対応できるよう部内での研修を行う。相談後の情報共有の機会を設ける。(相) ○ 聴覚部内で担当者について柔軟な対応を継続していく。(就)
③ 交流及び共同学習の推進 (学部、ICT)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 西荒瀬保育園との交流を計画し実施する。(聴幼) ○ 居住地校や西荒瀬小との交流学习を計画し実施する。(聴小) ○ 知中学部や酒田光陵高校との交流及び共同学習を計画し実施する。(聴中) ○ 西荒瀬小学校との交流学习を計画し実施する。(知小) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 直接交流では同年齢と集団活動ができよい刺激となった(聴幼) ○ 居住地校と連絡調整を行いほぼ予定通り実施できた。西荒瀬小とは学部、学年ごとにも交流を実施した。(聴小) ○ 中3生徒について作業や進路学習、修学旅行等を実施した。光陵高との手形交流を実施した。(聴中) ○ 4、5年生が交流学习を実施した。5年生は昨年から継続して実施できた。経験の拡大が図られた。(知小) 	A 保護者 4 職員 13	<ul style="list-style-type: none"> ○ 居住地校交流のねらいを明確にし進める。西荒瀬小とは学年の交流も年度始めに調整し計画的に行う。(聴小) ○ 学校間交流について検討する。(聴中) ○ 保護者に学校としての交流学习について説明を行う(教、知小) ○ 校外でのバザー、ボランティア活動での地域との交流を計画に入れるよう検討を進める。(知中)

<学校評議員会より>

- ・ コロナ禍でも子どもの活動や相談等、要望に応えようと感染防止対策を行いながら取り組んでいることがよく分かる。続けてこられたのはこれまでの蓄積や地域との「つながり」の成果であると考えます。
- ・ 経営テーマに「つながり」と設定し保護者や地域、関係機関との連携をよく図っている。コロナ禍だからこそ学校での様子を知ることができるよう、授業参観のやり方やおたより等での情報発信を大切にしていきたい。
- ・ 学習活動の継承には工夫と運営側の苦勞が伴う。幼児児童生徒や保護者にとって安全安心な環境を整えながら、今後もつながりを意識した学習を推進していくことを期待する。